

だれにも当てはまる日常のできごとを人間味のある、あるが

ままの目でユーモラスに綴る CL diary #69

むーらん



chiaf

4月27日(水)

今日中に終わらないといけない仕事があって、それに必要な回議書が見当たらない。書類を失くしたとなれば、仕事はできないし、何より大きな問題。他の人に気づかれないように何気なくあちこち探したのだが、どこにもない。いつもと同じように振る舞っているが、心の中はめちゃくちゃ焦っている。いよいよ皆に言ったほうがいいのか、と思い始めたとき、何気なくコピー機のふたを開けた。するとそこに、私の探していた回議書が！

5月13日(金)

仕事から帰ってきて、何だか暑いなこの部屋、と思ったら、エアコンの暖房が点いている。リモコンは机の上に置いてある。ねこが点けたとしか考えられないけれど、ねこに訊くわけにもいかないし…。ねこのせいにしてはいるけれど、本当は私がぼおとして点けたのかも…真実は謎のまま…。

5月25日(水)

私が乗ったエレベーターに、後から乗ろうとした人がいたので、ボタンを押して待っていたのだが、乗ったあと「ありがとう」を言われなかったのが、なんだか、もやもや…。他人は自分の思うようにならないことを、いいかげん、理解するべきだ。自分の感情さえまならないのに。ただ、その「もやもや」も時間が経つとどこかに消えていったようだ。

5月26日(木)

初めて行くクリニックで、入り口のドアが押しても引いても開かない。もしかしてここ、入り口じゃないの？ここから中が見えているし、ひょっとして窓？かといって、ほかに入り口らしきところは見当たらない。ああそうか、と思ってドアを横に押してみると開いた！ああもう、この失敗、何回目？

6月5日(日)

今日は市主催の写真展の搬入の日。大勢の人たちが自分の作品を会場まで持ってくる。その受付をしたのだが、職員は作品には触れられず、専門業者の方に運搬をお願いする。そこで、受付のたびに「業者に言って、この用紙を、作品の後ろに貼ってもらってください」と言い続けた私。人が少し途切れた時に、上司がそっと私に、業者「さん」な、と。ちょっと私、偉そうだったかな…。言ってもらわなければ気づかなかった。

7月2日(土)

今日は山科まで行く用事があったので、山科駅に来たときは、いつも行っている駅前の和食の店へ。「ひとりです」と言い、席まで案内されて、待っていると、私ひとりなのに、お茶がふたつ運ばれてきた。また、私の言った「ひとり」が「ふたり」に聞こえたのだろうか。コンビニなどへ行って「ひとつ」と言うと、何でも「ふたつ」でてくるので、これではいけないと思って、このごろ、「ひとつ」ではなく「一個」と言うようにしているのだが…。「ひとり」は何かいいほかの言い方はないだろう


7月6日(水)

今日は肺の定期検診で、先生から、先週撮ってもらったCTの説明を受けた。パソコンの画面を一緒に見ながら、「再発とかはないですね」と先生。「先生、すい臓とかはどうですか？」と私。すると「うーん、僕ね、すい臓は得意じゃないの」そうなんだ。お医者さんだったら、何でも知っていると思っていたけれど、やっぱり、私と同じように、得意なものと苦手なことがあるのだなあ。

7月10日(日)

今日は参議院議員と県知事選挙の投票日。実家の近くの投票所に、久しぶりに投票事務に行くことになった。朝は6時半に集合、夜は8時過ぎまで、受付をして、投票用紙を配る。その後、開票事務にも行った。開票作業で、1枚1枚投票用紙の点検をしたけれど、あまりの多さに、永遠に終わらないかと思った。本当に今日は朝から晩までよく働いたと思う。疲れたけれど、何だか気持ちはすっきり。

(滋賀県滋賀郡CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)